

6月26日 コリントの信徒への手紙Ⅱ 5章16節～6章4節 今日の説教から
説教題：「神と和解せよ」

道端を歩いていると、時折黒い板に「神と和解せよ」などの聖句が書かれた看板を見かけることがあります。ただ、この言葉は私たちの持つ聖書には記されていません。おそらくは今日の聖書箇所（コリントの信徒への手紙Ⅱ 5章20節）に記されている「神と和解させていただきなさい」という言葉の異なる翻訳として「神と和解せよ」という言葉があるようです。

今日の聖書箇所（コリントの信徒への手紙Ⅱ 5章20節）で「神は、キリストを通してわたしたちを御自分と和解させ、また、和解のために奉仕する任務をわたしたちにお授けになりました」と書かれているように、すでに神様の側から和解がなされていることが示されています。わたしたち人間が生まれながらに持っている「神様を最優先にすることが出来ない」という罪、その罪はイエス様の十字架上の死によって贖われました。この贖いによって、神さまは私たちに対して「和解しよう」と歩み寄ってくれているのです。

ただ、その神様の手を取ることが出来るのか、イエス様を信じ、神様を信じ、信仰に入ることかどうかの判断は、私たちにゆだねられています。私たちにはそれほどまでの自由が与えられているのです。私たちが奴隷のように扱い、命令し、従わせるような方が私たちの神様ではありません。私たちが罪の奴隷から解放して、自由な意思を与えてくれている、その自由な意思によって神様の言葉に従ってほしい、イエス様を主であると告白してほしいと、私たちに判断をゆだねる方が私たちの神様なのです。

これは、私たちに自由が与えられているという喜びの報せであり、神様の大切な業を私たちに期待されているという誇らしい知らせであり、同時に私たちにとっては大きなプレッシャーにもなってしまいます。私たちの宣教の業によってイエス様のことを信じる人が増えることもあれば、逆にイエス様のことを信じられなくなる人も出てきてしまうかもしれません。私たちのふるまいを見て、「あの人が信じているキリスト教という宗教は信じるほどのものでもないのではないか」と思われてしまうかもしれないのです。だからこそパウロは、今日の箇所（コリントの信徒への手紙Ⅱ 5章20節）の最後で「この奉仕の務めが非難されないように」気をつけなさいと、「どんな事にも人に罪の機会を与えないように気をつけなさい」と忠告をしています。

「神と和解せよ」「神の和解を受け入れなさい」、どちらも同じ意味ですが、私たちが使う言葉遣い一つで、御言葉の意味は様々に受け止められることになります。だからこそ、おなじ原文、同じ単語から時代に応じて違った翻訳が生まれてくるのでしょう。私たちのふるまいによっても、「クリスチャンとはこういう人なのだ」と、理解を深められることもあれば誤解をされてしまうこともあります。そうならないためにも、まず私たちが聖書の知識を深めて、神さまが、イエスさまが、聖霊がどのような存在なのかという理解を深めて、そしてそれを伝える言葉を学んでいかなければいけません。それが私たちに期待されている奉仕の業なのです。

日々の学びが豊かに祝されることを願いながら、今週一週間の、これからの歩みを共に進めていきましょう。

今日の説教箇所：コリントの信徒への手紙Ⅱ 5章16節～6章4節

- 16:それで、わたしたちは、今後だれをも肉に従って知ろうとはしません。肉に従ってキリストを知っていたとしても、今はもうそのように知ろうとはしません。だから、キリストと結ばれる人はだれでも、新しく創造された者なのです。古いものは過ぎ去り、新しいものが生じた。これらはすべて神から出ることであって、神は、キリストを通してわたしたちを御自分と和解させ、また、和解のために奉仕する任務をわたしたちにお授けになりました。つまり、神はキリストによって世を御自分と和解させ、人々の罪の責任を問うことなく、和解の言葉をわたしたちにゆだねられたのです。
- 20:ですから、神がわたしたちを通して勧めておられるので、わたしたちはキリストの使者の務めを果たしています。キリストに代わってお願いします。神と和解させていただきなさい。罪と何のかかわりもない方を、神はわたしたちのために罪となさいました。わたしたちはその方によって神の義を得ることができたのです。
- 1:わたしたちはまた、神の協力者としてあなたがたに勧めます。神からいただいた恵みを無駄にしてはいけません。なぜなら、「恵みの時に、わたしはあなたの願いを聞き入れた。救いの日に、わたしはあなたを助けた」と神は言っておられるからです。今や、恵みの時、今こそ、救いの日。わたしたちはこの奉仕の務めが非難されないように、どんな事にも人に罪の機会を与えず、あらゆる場合に神に仕える者としてその実を示しています。